

1995

都市の成熟と芸術の役割—歴史的建造物と芸術の共振

報告：前川義春



鯨澤達夫《方法としてのカフェマッキナ》

1995-1996

大理石粉末、木、鉛、顔料

W1700 × D3000 × H360cm



伊東敏光《指湖にて》

1996

鉄、ガラス、石筆

W242 × D484 × H260cm



前川義春《10メートルの流動体》他2点

1998

御影石

W1000 × D80 × H100cm

上記のプロジェクトは、平成7,9,10年度広島市立大学特定研究としておこなわれた。研究組織員は以下の通りである。研究代表者／前川義春（現芸術学部教授）研究組織員／大井健地（現国際学部教授）／鰐澤達夫（現芸術学部助教授）／伊東敏光（現芸術学部助教授）／松本賢治（当時芸術学部協力研究員）／難波裕子（当時芸術学部協力研究員、第二、三回）。

戦後、歴史的建造物は次々と姿を消し現代的な建築物へと変化し続けている。このような状況の中、歴史の積み重ねによる都市の重厚さ、また歴史性をふまえた上での未来への思考が希薄になっている。わたしたち特定研究グループは「広島市に残された歴史的建造物を会場として芸術展示を行い、歴史と向かい合いながら独自の芸術表現を築く。」という研究目的のもと、以下3回の実験展示・コンサートをおこなった。



コンサート風景
第二回会場：旧陸軍糧秣支廠倉庫

都市の成熟と芸術の役割－歴史的建造物と芸術の共振 No.1

会期：1995年（平成7年）12月11日（日）⇒12月23日（土）11:00-17:00

会場：広島大学学校教育学部旧図書館（広島市南区東雲3-3-33）

作品展示：伊東敏光、鰐澤達夫、前川義春

[パネルディスカッション]

1995年12月16日（土）16:30-18:00

コーディネイター：大井健地、パネラー：研究組織員

[コンサート] タイトル「近代の伽藍にて」-北村太郎「ピアノ線の夢」より-

日時：1995年12月16日（土）18:30-20:00

松本賢治他

（詳細は広島市立大学芸術学部紀要 平成9年度 P.60-P.65 に掲載）

都市の成熟と芸術の役割－歴史的建造物と芸術の共振 No.2

会期：1997年（平成9年）1月4日（土）⇒1月15日（水）11:00-18:00

会場：旧陸軍糧秣支廠倉庫（広島市南区宇品海岸3-11）

[作品展示] 伊東敏光、鰐澤達夫、前川義春

[講演] 演題『模索するパブリックアート』

日時：1997年1月11日（土）15:00-16:00

出原均（広島市現代美術館主任学芸員）

[コンサート] タイトル「近代の伽藍の中で」

日時：1997年1月11日（土）17:00-18:00

松本賢治他

（詳細は広島市立大学芸術学部紀要 平成11年度 P.72-P.81 に掲載）

都市の成熟と芸術の役割－歴史的建造物と芸術の共振 No.3

会期：1998年（平成10年）9月23日（水）⇒10月2日（金）11:00-19:00

会場：サントリー株式会社宮島工場内倉庫（広島県佐伯郡大野町丸石2-6-7）

[作品展示] 伊東敏光、鰐澤達夫、前川義春

[講演] 演題『美術の力』

日時：1998年9月27日（日）17:00-18:00

越前俊也（広島市現代美術館学芸員）

[コンサート] タイトル「近代の伽藍にて No.3」-電子音楽のひろがり-

日時：1998年9月27日（日）18:30-19:30

松本賢治他

（詳細は広島市立大学芸術学部紀要 平成13年度 P.70-P.77 に掲載）